

令和7年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない										回答数 教職員14 生徒110 保護者68 地域住民42				評価資料	到達率 [肯定評価(A,B)の割合]	アンケート結果(人数)					
【評価規準】 80%以上肯定(A)、60%以上肯定(B)、40%以上の肯定(C)、40%未満の肯定(D)																A	B	C	D	?	
重点目標		評価指標 及び目標値	期間	評価	学 校 に よ る 考 察<◇> 及 び 改 善 策 等<◆>																
生徒指導の徹底と健全育成	生徒の健全育成	生徒理解に努め、生徒の課題に積極的に対応している。	年度末	B	◇教職員、生徒、地域住民の肯定評価は、中間期と同様に90%を超えているが、保護者の肯定評価は低下している。引き続き、家庭との共通理解や見守り体制の強化に努める必要があると考える。また、学級や部活動、委員会活動など、各場面での所属感や充実感を味わえるような活動の充実が大切であるとする。 ◆日頃の生徒との積極的なコミュニケーションを大切にし、生徒の変化に気付き、早期に適切な対応ができるように努める。学級や部活動、委員会活動など、各場面で安心して意見交流ができる雰囲気作りを推進する。新たな進路や次の学年へ安心して進むことができるよう、生徒や保護者に寄りそう生徒指導により一層努める。	教職員	6.7	93%	8	5	0	1									
		いじめがなく、認め合い支え合う集団づくりに努めている。				生徒	6.7 9.1	88%	42	55	12	1									
		目標値:アンケート結果80%以上肯定				保護者	5.6	69%	13	34	20	1									
						地域住民	5	100%	12	28	0	0	2								
	道徳教育の充実	自立心や自律性、規範意識など豊かな人間性を持った生徒を育てている。	年度末	A	◇中間期と比べ、保護者の評価が上がった。生徒の評価も向上したので、A評価とした。前期と同様に、授業を工夫し、対話を中心とした授業を行うことができている。 ◆教職員の評価は少し下がった。校内研修等で全教職員が年に一度は道徳の授業をするように声掛けをしているが、実際にはできていない状況である。学級担任以外の全教職員が道徳の授業を実施できるように、引き続き声掛けをしていきたい。	教職員	8	86%	2	10	2	0									
		目標値:アンケート結果80%以上肯定				生徒	8.9	96%	43	63	2	2									
						保護者	7	88%	7	53	8	0									
						地域住民	6	97%	11	26	1	0	4								
	特別支援教育の推進	配慮が必要な生徒を、学校全体で支援している。	年度末	A	◇中間期と比べ、生徒の評価もさらに上がったため、A評価とした。通級の生徒は、受験に対しての不安もあり、より学習に励む様子が見られた。特別支援学級の生徒は、交流学級・自教室で学級担任や支援員に困り感があるときは表現し、前向きに学習や生活を送ることができている。 ◆引き続き教職員間の情報共有や外部機関との連携を密にして、生徒にとってより良い支援を行っていく。	教職員	9	100%	5	9	0	0									
		目標値:アンケート結果80%以上肯定				生徒	10	98%	67	41	2										
	人権・同和教育の推進	学校生活を通し、人権意識の高い生徒を育てている。	年度末	A	◇いずれの評価者も80%以上の肯定率のためA評価とした。特に校区别人権・同和教育懇談会に向けて、講師のプレゼンを使って事前に校内研修を実施し、教員の人権意識の向上を図った。校区别人権・同和教育懇談会の1か月前から人権強調月間として全校体制で取り組み、城中人権宣言の群読や人権作品の制作、さらには人権課題に関する対話活動を通して、生徒達も人権意識を向上させたと考えられる。 ◆人権意識は、日々の学校生活の中で培っていくものであるため、評議委員会を中心に温かい言葉遣いや周囲への気遣い等の呼び掛けを継続していきたい。さらに、生徒の最も身近な存在である我々教職員が、人権意識の高い言葉遣いや態度、振る舞いを大切にして、生徒と関わっていくようにしたい。	教職員	10	100%	4	10	0	0									
目標値:アンケート結果80%以上肯定		生徒				10.11	98%	67	41	2											
学校運営協議会委員の所見(年度末)		・健全育成のCやDの評価をしっかりと受け止めてほしい。 ・記述の意見を見ると、学校と家庭の情報共有が十分できていないと感じる。 ・生徒が複数の教員と相談ができる体制をつくる。 ・記述でも意見をもらえるのはよいことである。対話を大切にしながら対策を考えてほしい。 ・校区别人権・同和懇談会は土日開催も考える必要がある。					学校の対応(年度末)		生徒の健全育成については、生徒の評価の数値は良好であるがCやDの生徒がいるため、個々の生徒に焦点を当て、生徒に寄り添う生徒指導の充実に努める。また、生徒が困りごとを相談しやすいように、複数の教職員で関わる体制を整備していくとともに、生徒と教職員の対話を大切にし、安心して学べる環境の整備に努める。保護者との対話も大切に生徒の家庭での様子などの情報共有に努め、生徒指導に生かしていく。												